

# ライフケアガーデン湘南 特定入居

症 例 概 要      利用者氏名：Y・S様 （ 90代 女性 要介護2 ）

利用期間：平成30年8月～平成30年10月現在

主疾患：重度の巻き爪、両足底の魚の目、直腸脱

経過：平成30年8月に入居。入居時重度の巻き爪と両足底に大きな魚の目があり魚の目からの感染にて両下腿の発赤と腫脹があり歩行困難であった。同じグループの湘南慶育病院の皮膚科に緊急受診依頼し長く伸びた爪をカットしてもらう。また、直腸脱があるため排泄時の汚染が頻回でご本人も不快感が常にあった為、大腸肛門科にて手術をしてもらう。術後の経過も良好で現在に至っている。今回、ご本人の抱えている問題点を短期間で取り除き施設での生活ライフをenjoyできるようになったその取り組み。

## 内 容

長年、夫婦2人で生活していたが2年前に夫が他界。子供が居ないため一人暮らしをしていた。今まで大きな病気はしていないが、変形性膝関節症・右変形性股関節症と直腸脱があり体を自由に動かす事ができなかった。そのため足の爪を切ることが出来ず巻き爪となり足底には大きな魚の目ができてしまい痛みがあり歩行する事が出来なくなる。地域連携のケアマネージャーの勧めもあり平成30年8月に当施設に入居となる。ご本人は、足を治して歩けるようになりたいと希望している。

問題点    #1、重度の巻き爪    #2、両足底の魚の目と魚の目からの感染    #3、直腸脱

入所後、直ぐに健育会グループ湘南慶育病院皮膚科に緊急受診依頼をし長く伸びた爪をカットし魚の目の処置をしてもらう。病院受診は1回のみ。その後、毎日足浴を行い足底の魚の目には、軟膏塗布しガーゼ保護し経過観察を行った。ひとり暮らしで自由気ままに生活していた為か居室からなかなか出てくる事がなかったが、足浴を理由に介護職の声掛けでデイルームに出てくる回数を徐々に増やし他の入居者とのコミュニケーションが図れるよう努めた。9月に入り足底部の魚の目による感染症状も落ち着いたため足浴OFFとしスピール膏を貼布。痛みは、改善傾向となる。51歳頃より直腸脱があり何度か病院受診をされていたが徐々に悪化してしまい入居時は、ソフトボール大の直腸が出ている状態であった。ご本人は、布パンツに生理用ナプキンを10枚くらい敷き詰め使用していた。入居後、リハビリパンツに変更し尿取りパットを使用する。しかし排泄のたびに汚染があり清潔に保てず直腸脱の部分が赤くただれてしまっている状態が続いていた。ご本人と相談し一度大腸肛門科で診察をした方が良いと受診して頂く。受診の結果、手術をする事となり平成30年9月21日に開腹直腸固定術施行。

高齢のため色々な面で心配されたが、術後の経過も良好にて10月に退院される。入院中、足底部に貼っていたスピール膏は、剥がさずにそのまま施設に戻られる。施設に戻られてからゆっくり剥がすと、きれいに魚の目の部分が取れる。入居から2ヶ月の短期間でご本人の問題点を3つ改善することができた。

今回短期間で改善する事ができたのは、94歳という高齢でありながら歩けるようになりたいと希望を持たれていたので1日でも早く歩かせてあげたいとスタッフ一同が共感できた結果だと思う。現在、少しずつではあるが介護職が生活リハビリを行い、理学療法士による歩行訓練を実施中である。1日でも早く自立歩行ができY・S様の希望が叶い素敵な笑顔がみられるようスタッフ一同願っております。